

三重の土地改良アラカルト

「みやぎの農業農村復旧復興セミナー」の開催及び全国パネルリレーについて



宮城県菅原次長

宮城県では、震災から3年目を迎え、全国からの支援により進んだ復興の成果の報告と感謝の意を伝えるため、「農業農村復旧復興セミナー」を全国で開催しています。本県においても平成25年8月23日(金)、三重県総合文化センターにおいて、三重県との共催により開催しました。宮城県からは、菅原農林水産部次長を始め、本県からの派遣職員2名が駆けつけ、復興の進捗状況や現状の課題などについて、報告がありました。

セミナーへは、県職員・水土里ネットなど約80名が参加しました。

冒頭に菅原次長から派遣に対する三重県への御礼の言葉がありました。

復旧の進捗状況について、復旧が必要な農地13,000haに対して11,000ha



セミナー参加者

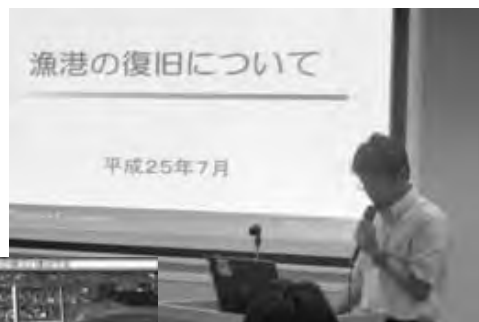
で工事に着手しているものの、平成25年6月で工事完了面

積は7,766ha(60%)であり、まだまだこれからが本番であるとの報告がありました。また、今後の課題として、技術的な課題の他、マンパワー不足が大きな問題となっており、今後も引き続き支援をいただきたいとの依頼がありました。

仙台地方振興事務所へ本年度から派遣されている奥主任主査は、宮城県の南部方面の農地整備に携わっています。担当する業務として、除塩を実施しており、大量の水が必要となるため、水の確保に苦慮しているとの報告がありました。

また、大規模災害の場合は、全てが埋没し現況がわからなくなるため、復旧には航空写真が役立っているとのことでした。

西久保主任主査については、農林水産部漁港復興推進室へ派遣されており、農業土木技師として漁港の復旧に携わっています。今回は漁港の復旧における現状や課題の報告がありました。



西久保主任主査の報告



漁港被害としては、4,339億円であり、復旧状況(着手率)は86%とのことでした。また、防潮堤整備においては、地元要望などを踏まえた「まちづくり」の調整に苦労しているなど、整備が遅れている報告がありました。

セミナーと並行して、平成25年8月19日から一週間、県民ホールにて、全国28都道府県と連携した復旧復興パネルリレーの展示を行いました。

23パネルの展示の他、みやぎへの応援メッセージの寄せ書きを設置したところ、多数の応援メッセージをいただきました。ありがとうございました。



奥主任主査の報告



県民ホールでのパネル展示